

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0770700649		
法人名	株式会社 想健		
事業所名	グループホーム いにしえ(2階ひだまり)		
所在地	福島県須賀川市下宿83番地		
自己評価作成日	平成28年1月8日	評価結果市町村受理日	平成28年3月1日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/07/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人福島県シルバーサービス振興会		
所在地	〒960-8253 福島県福島市泉字堀ノ内15番地の3		
訪問調査日	平成28年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとり家で行っていたことや、進んで嫌がらずに行なわれる仕事を見極め、役割として準備をしたり声かけをしながら行っている。それぞれの状態、力量を考慮しながら対応している。また毎日の買い物に利用者様と一緒に出かけたり、近隣住民の方々も利用できるゴミ集積所を設け、挨拶や会話が出来る機会を設けている。毎週水曜日は、利用者様の希望食を取り入れ順番に本人の好きな物、食べたいものを食べることができるようにしている。以外にも適時対応している。玄関は、夜、遅番が帰ってからしか施錠はせず、毎日玄関先のベンチや椅子に座られ、利用者同士が会話をされたり、日向ぼっこをされながら、たまにお茶を飲まれたりされている。利用者によっては、箒で庭掃除をされたり草むしり、水やり、金魚のえさやり等を行いながら生活されています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝申し送り後、いにしえ理念を唱和し再認識して実践できるよう努力をしている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩時やゴミ出し時に挨拶したり、毎年行っている夏まつりには近隣にチラシを配り挨拶したり、敬老会には児童館と連絡を取り合い子供達に来て頂いている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	実習生や職場体験の受け入れをしている。またキャラバンメイトに所属し認知症ケア専門士のスタッフがおり、市役所、農協職員の受講生の講師を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、事業所の取組内容や具体的な改善課題がある場合にはその課題について話し合い、会議メンバーから率直な意見をもらい、それをサービス向上に活かしている	奇数月の第4火曜日に運営推進会議を行っており、ホームの生活状況やひやりはっと、事故報告や災害時の協力体制についての意見交換をしアドバイスなどを頂き、改善に向け取り組んでいる。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の高齢福祉課や介護保険課担当者と現状を伝えたり解らない所を伺ったりと連絡を取り合い連携を図っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の勉強会を実施し意識改善に取り組む拘束のないケアを実践している。夜間以外は施錠はせず、センサーで対応し、いつでも出入り自由となっている。また昨年度は、車いすにマジックテープ付のベルトを使用していたが、今は取り外し見守りをしながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	身体拘束とともに勉強会を実施しているほか、言葉や態度での「不適切なケア」等を中心に随時、その場その場でのケアのあり方を意識付けをし、防止に努めている。身体に発赤等を見つけたら、ヒヤリはつとを記入するようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	昨年は勉強会を行っているが、今年はまだ行っていない。1Fには成年後見人制度を利用されている方がいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時、契約書、重要事項説明書を契約時に説明し同意をいただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会での意見を反映している。他、面会時にスタッフや管理者から、現状を伝え不安なことや要望や、意見も募るようにしている 苦情がある時は、管理者中心となりスタッフと話し合い、実情を把握し、振り返り、結果報告をしたいと思っている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフが、意見を言いやすい環境作りに努めている。ユニット会議で話し合いをしたり、適時スタッフに声をかけたり、意見を言ってもらえる声かけをし引き出し反映している。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回自己評価をおこない、個々の努力や実績を把握し賞与等で反映している。又勉強会をはじめ各担当会議やユニット会議の時間外手当を出している。資格を得るために受講料、宿泊費、交通費を初回のみ全額援助している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	内部の勉強会始め、個人の力量や経験に合わせて、グループホーム連絡協議会や、シルバー振興会等の外部研修に参加できるようにしている。内部の勉強会も適時行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修を通して交流を図り、他施設の実情を伺いサービスの向上に努めている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	実態調査時に、本人、家族の話をよく伺い、要望等を伺い安心できるように努めている。入所してからは、本人の言動を観察し、信頼関係を築けるようコミュニケーションを図り、本人の意を汲み取り、1日でも早く安心して生活できるよう支援している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	実態調査時に、家族の話に耳を傾け入所後の生活をどのように望んでいるか、意向や希望を伺い、常に連携を取り合っていくことを話させて頂いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	実態調査時の話しや言動をもとに、予測されるリスクカンファレンスを開き、すぐに必要とされる支援を見極めてサービスに繋げている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様の言動を観察しながら、何をしたいのか、何ができるのか、何を望んでいるのか、どうすればいいのか予測をしながら一緒に行っている。食事の準備、片付け、洗濯物干し、たたみ、片付け等分担し役割を持って行って頂いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事や、草むしり等に家族にも参加して頂き協力を得ている。定期的に通っていた美容室へ家族とともに出掛けたり、面会時には、現状態を報告し、たりない物品を持参してもらったり、不定期ではあるが外泊されたり、他施設に入所されている姉の所に面会に行かれたりされている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族と墓参りに行ったり、娘さんの所に泊まりに行ったり、定期的に通っていた美容院に行ったりされている。また、不定期ではあるが、近所の友人が面会に来られる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクや行事、役割等を通して、お互い話が盛り上がったたり、譲り合いやホローしあっている姿が見られみられる。そっと見て見ぬふりをしながら支援している。 また、孤立化しないよう声かけ仲介に入り話しを振り場を盛り上げるようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	死亡ため行なっていない。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の言動をケース記録に残し申し送りをし全員把握してカンファレンスで話し合いをしている。本人のシグナルは何かを基本に思いを察知し意に添っているか確認しながらケアの改善に努めている。本人、他者にとって影響がない限り尊重している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時に本人や家族から聞いたり、入所後も日々の会話や行動を家族に伝え聞いて把握したり、アセスメントシートを作成し全スタッフが把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の言動から、能力ややりたいこと、心身状態を見極め現状を把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人の意向や家族の面会時に希望を伺ったり、日々の本人の言動を把握し、アセスメントを作成し、サービス担当会議にてモニタリングを行いケアプランを作成している。心身状態に関しては、看護師や主治医の指示も含めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々のケース記録や言動をもとに、カンファレンスで課題をあげ、改善策を皆で考慮し実践し、やってみてどうなのか再検討しながらケアプランの見直しに活かしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期受診の他、都度の体調変化に必要な皮膚科や眼科、歯科等、随時、家族と連絡しあい臨機応変に対応している。グランドゴルフの参加されている利用者には送迎を行い、参加している老人会の方々と会話をし交流している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	老人会主催のグランドゴルフに4月から11月まで参加していたり、近くの児童館の子供達を毎年敬老会に招いて交流を図っている。また地域のボランティアをお願いして、夏祭りやクリスマス会に来て頂き場を盛り上げてもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医を確認して、希望される医を受診出来るようにしている。ホームDrに変更される方もいらっしゃいます。家族が通院希望があれば家族が同行し、家族が困難の場合は管理者が同行している。情報は受診記録に残しスタッフ全員が把握できるようにしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応の訪問看護ステーションと契約しており、毎週木曜日に来所され、日頃の状態や変化、不安なこと等を報告しアドバイスを受けている。急変時にも連絡し主治医に報告して頂き指示を仰いでいる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報を提供し、家族や病院の相談員や看護師と連絡を取り合い状態を把握し退院の見通しを伺っている。また、スタッフがお見舞いに伺い馴染みの関係作りも継続している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に終末期について説明し看取りも行っていることも説明している。が、状況、状態によっては希望が変化するので、その時その時に改めて主治医、家族、管理者で今後の治療方針や看取りについて話し合いを設けている。結果を訪問看護やスタッフに報告し、医療、家族、介護で連携を密にして取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時のマニュアルを作成して連絡体制を整えている。何かあれば24時間対応の訪問看護に連絡して指示を受けられるようにしている。AED心肺蘇生の研修は今年度も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定で自主避難訓練を行っている。災害時に備えて同系列のディサービスと連携し、避難バックも常備し緊急時に備え対応しやすくしている。また今年度は7月、11月に消防署員の立会のもと訓練を行い改善すべきところの指示を仰いでいる。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	本人の発言や行動を否定しないよう心がけ「名前をさんで呼ぶ」「～ですか」「○○で良いでしょうか」等返答できる問かけをし、なれ合いには十分気をつけている。特にトイレの声かけはさりげなく、耳元で本人だけに聞こえるよう声かけし配慮している。異性が入浴介助を行う場合にも本人への確認やプライバシーに配慮しながら行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	何かを行う時には本人が選択できる声かけや選択できる物を準備している。ぬり絵や食べ物等希望を伺ったり、レクや役割も無理強いわず働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	すべて利用者様のペースで行なうのは共同生活の中では困難であるが、なるべく自由に本人のペースで過ごして頂けるよう、やりたくない方は、寝ていたり、踊り場から外を眺めたり、パズルをされたり、自由にホールを自走されたりして自分のペースで過ごされている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で選べる方は、着たい服を選んで着ている。選ぶことが出来ない方には、選択して頂いている。外出時には外出用に着替えられたり、鏡を見て水油をつけ髪を整えたりされる。服装が乱れている方にはさりげなく整えを介助している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事に関連した作業を利用者とともに職員が行い、一緒に食事を味わいながら利用者にとって食事が楽しいものになるような支援を行っている	米の精米や、味見をして頂いたり、好みじゃないメニュー時は、本人が食べられるメニューに変更したりしている。片付けも洗った食器をテーブルに運び拭いて頂いたり、お膳を洗って頂いたりし自主的な行動を大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	コーヒーを入れお湯を入れてとコップを持参される方、好みの物を購入し自室で飲まれる方、適時進めると飲まれる方と、制限がない限り1日1000ml以上の飲水ができるよう工夫している。食事も一人ひとりの状態によって、ミキサー食、刻み食、お粥等にしながら提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、うがいや、歯磨き、義歯洗浄、スポンジでのケア等をおこなっている。又定期的に歯科に通い汚れのチェックや歯の状態を見てもらっている方もいらっしゃいます。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	夜間はオムツ使用だが、日中はリハパンを使用し定期的にトイレ誘導を行い、トイレでの排泄をうながしている。また言動を観察しウロウロされたり、他居室を開けてしまったりの行動が見られたらトイレ誘導している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎朝冷たい牛乳を飲まれるほか、チェック表を確認しながら状況に応じて、運動や腹部のマッサージ、水分を多めに取って頂いたり、繊維の多い食べ物を食べて頂いたり、階段昇降など身体を少しでも動かせるよう工夫している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一番風呂に入りたいという方には、いつもとは異なるが状況によっては、一番に入ってもらっている。今は拒否される方もいないので順番に状態を見ながら入浴されています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	早めにパジャマに着替えられ入床される方、横になりながらテレビを見られる方、ホールでテレビを見られる方等それぞれに過ごされています。昼食後も、しっかり休まれる方、ベッドで時代劇を見られる方と自由にされています。また寒い思いをしないように早めに暖房を入れ暖かくしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	受診記録の中に処方箋を挟み確認できるようにしてあります。封を切って手渡しの方、口の中に入れる介助をする方もいらっしゃいます。いずれも落としたり、出してしまうたりしないよう飲み込むまで確認しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	届け物を1Fへ届けて頂いたり、花の水やりをして頂いたり、ほぼ毎日買い物と一緒に行っていただいたりしている。スタッフに欲しい物、お菓子や果物飲み物等依頼し購入され居室に置いて好きな時に飲まれたり、預かっていて訴え時に手渡し食べたり飲まれたりされている方もいらっしゃいます。他精米、パズル、塗り絵等様々です		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常の買い物の他に、通院方々ドライブ、季節に応じて花見や外食、足浴等利用者みんなが楽しむことができるよう努めている。また、また娘さんの所へ泊まりに行かれたり、姉の所へ面会に行かれたり、墓参りにも行かれたりされている。天気を見ながら玄関先で過ごされることもある。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	家族と話し合い財布に小銭を入れ持たれている方もいらっしゃいます。他自分で管理している方はおらず、ホームの金庫で預かり欲しい物がある時はいつでも購入できるようにしている。現金出納帳を記帳し月末にコピーを取り領収書と一緒に家族に郵送している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	訴え時は状態を見ながら、いつでも対応しています。手紙も娘さんの所や姪の所に書かれている方もいらっしゃいますが、返事は来たことはありません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	日当たり、風通しも良く、静かな環境になっている。トイレや台所はブラインドで光を調節している。大きな文字でトイレを表示したり、季節に応じた作品を展示したり、季節の花を飾ったり、温度、湿度を管理し見やすい手作りカレンダーも利用者様に毎日めくって頂いている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者同士が座って写真や作品を眺め会話されたり、踊り場のソファに座られたり、外を眺めたりされている。炬燵に入り居眠りをされる方もおります。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室、或いは泊まりの部屋は、プライバシーを大切にし本人や家族と相談しながら、居心地よく、安心して過ごせる環境整備の配慮がされている(グループホームの場合)利用者一人ひとりの居室について、馴染みの物を活かしてその人らしく暮らせる部屋となるよう配慮されている	テレビや家具を持ちこまれていたり、仏壇なども持ち込まれています。娘さんたちと相談しながら、壁に好みの物を貼り付け可愛らしく飾りつけている方もおります。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室には好みの暖簾をかけ表札をつけ解るようしたり、トイレは大きく表示し混乱を少しでも避けるようにしている。洗濯物も小上がりに干し自分でとりこみただんでしまう方もいます。また自ら箒を取り出しホールを掃き掃除出来るようにしている。		